

同窓会報

(第一号)

編集・発行

大阪府立槻の木高等学校

同窓会役員会

高槻市城内町2-13

TEL 072-675-2600

FAX 072-675-2960

第一回同窓会総会を迎えるにあたって

槻の木高等学校同窓会会長 西 真一郎

一期生が卒業して早くも四年が経ち、同時に槻の木高校同窓会創立から四年が経った。島上高校、高槻南高校、槻の木高校、三校合同同窓会は本当に「ゼロからのスタート」であった。私はこの「ゼロからのスタート」に懐かしさを感じる。まさに七年前、槻の木高校に入学して生徒会を立ち上げた時と同じ状況なのだ。在学する槻の木高校生で島上、高槻南の先輩方を直接知るものはない。それだけに、この三校をつなげる存在として同窓会は大きな役割を担うことになると思う。形だけでない、現在の槻の木生と同窓生にとって意味ある同窓会に成長させたい。そのために、これから槻の木高校を巣立っていく生徒を含む槻の木の卒業生が主体的に取り組む必要がある。是非とも同窓生の皆様にはご理解、ご協力をいただきたい。

また、この同窓会が三校合同であることを忘れてはいけない。島上高校、高槻南高校の同窓生が槻の木生を見かけたとき、厳しくも優しい視線を与えることができるようになったとき、この同窓会の大きな役割が果たされたことになると思う。



第一回同窓会総会に寄せて

槻の木高等学校同窓会名誉会長

(槻の木高等学校長) 松本 秀範

来る十一月二十二日、待ちに待った記念すべき第一回目の同窓会総会が開催される運びとなりました。まことにおめでとうございます。平成十五年島上高等学校、高槻南高等学校の再編統合により槻の木高等学校が開校し、早七年の月日が経とうとしています。

槻の木高等学校は島上高等学校と高槻南高等学校、両校の栄誉を汚すことなくさらに発展させ、高槻に、さらには大阪に「槻の木あり」といわれる学校を目指して行くことを念じ努めてまいりました。同窓会員の皆様にはまだまだご不満な点もあろうかと思いますがどうぞあとしばらく温かくお見守りください。また、同窓会におきましては島上、高槻南両校の同窓会をよりよき形で発展させたものとして三校の同窓会を統合し槻の木高校の同窓会として新たな門出をすることが確認をされ、そのための準備が進められてまいりました。そして今回の総会がその記念すべき第一歩となります。

槻の木高等学校では平成十八年三月に第一期生が卒業し、すでに社会の第一線で活躍している者もありますが、来年三月大学を卒業、やっと社会人として巣立つ者も多くあります。若く経験もない槻の木の同窓会が島上、高槻南両校の同窓会に支えていただきながら今後百年続く三校の卒業生の心のよりどころとなりうる同窓会となりますよう心から願っています。同窓会員の皆様には、どうか物心両面でのご協力のほどよろしく願っています。最後に、先ずは、本総会へのご参加を心よりお願いいたします。

最後になりましたが、皆様方ますますのご発展とご健勝をお祈りいたしております。



第一回同窓会総会に寄せて

梶の木高等学校同窓会副会長

(嶋真会会長) 吉田 蔵治

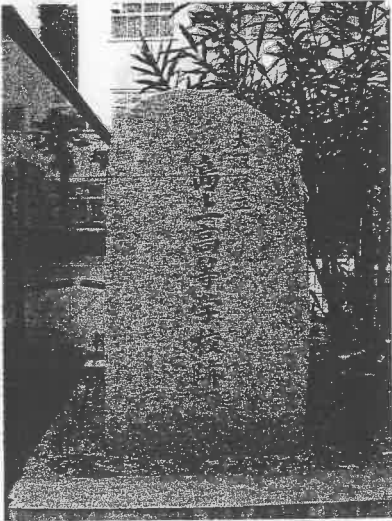
府立梶の木高等学校は、府立島上高等学校と府立高槻南高等学校が統合再編され、高槻城址にある旧島上高校校地に開校されたのが平成十五年四月。同月五日に開校式と第一回入学式が挙行され、発足してから早や七年目となり、月日の経つ早さに驚いています。

梶の木高等学校は全日制普通科単位制高校として、四つの教育目標を設定、その目標に向かって、校長先生をはじめ先生方が、生徒諸君と共に、日々努力を重ねられ、進学に就職に大きな成果をあげられていることは、嬉しい限りです。

時代の変遷と共に教育内容も変わってきています。中でも、我々の時代には考えられなかった活動の一つとして、「国際理解教育の推進」があり、外国語履修や海外修学旅行の実施であります。まさにグローバル化に対応し、「時代にあった学校」といえるでしょう。

平成十七年三月五日は、島上高等学校最後の卒業式(五十二期生)と閉校式があり、式に参列し、「島上」が無くなる事に万感胸に迫るものがありました。しかし、「梶の木」と新しい高校に生まれ変わり、「島上」の良き伝統は継承されるものと信じ気持ちの整理をつけました。今後は高槻の「梶の木」から、大阪、日本、世界に知れわたる学校に成長して欲しいと思います。そのために、梶の木同窓生と共に、前身校同窓生として、できる限りの支援はしていきたいと思えます。

最後に、梶の木高校及び同校同窓会の更なる発展と多幸を祈念しております。



教育は人なり

梶の木高等学校同窓会副会長

(梶の葉会会長) 友田 尋子

ご挨拶の冒頭に高槻南高校初代校長の言葉「教育は人なり」を拝借した。二〇〇九年九月の高槻南高校の跡地には分譲住宅が建ち並び、心の安らぎとの思いで移植されたという様々な樹木は一本も残っていない。

高槻南高校の「豊かな知性と人間性を身につける」の教訓を受け継ぎ、社会に貢献しうる人々を育成するさらなる、および新たな教育を梶の木高校が紡いでいることであろう。

教育の現場では、文化、宗教、習慣、性、価値観などの違った価値を慈しみ合えるよう知的共感性を増大することの重要性を生徒たちは学んでいる。人間の真の自由と尊厳を妨げるものを探究するためには、学問を共有するだけでなく、人との心のふれ合いが成立して初めて学習に相応しい場になる。「その人」であることを認めることのできる教師と生徒による、学力と人間教養の融合した適切な学習によって、社会の動きに対して、自由な心で批判し判断でき、行動する能力と態度を育成することが教育の大切な役割である。

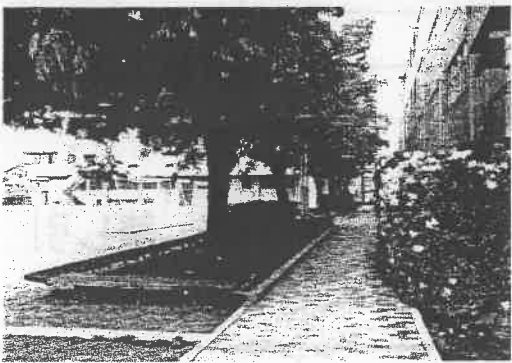
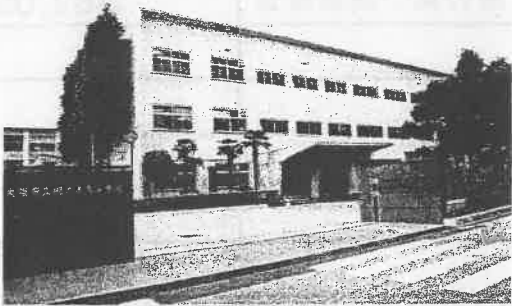
同窓会はその一助としてタツクルを組み合わせながら、後輩を育むことに尽力を尽くすことを期待する。第一回となる総会に大いに期待し、梶の木高校、そして島上高校、高槻南高校三校の大勢の同窓生の参加を望む。



槻の木高校同窓会発足と槻の木高校の七年 学校より

槻の木高校は平成十五年四月、島上高校、高槻南高校を母体校として統合再編し設立されました。その後、同窓会も設立されましたが、その経緯について少し述べさせていただきます。

槻の木高校は単なる新設校ではなく、二校の母体校の良き伝統を引継いで設立された学校であることを念頭に、開校当初より同窓会の設立について検討を始めました。二校の母体校を持つ新設校は、大阪で本校が初めてではなく他にも例はあるのですが、母体校の同窓会と新設校の同窓会が一体となって運営している例はほとんど見あたらず、一から検討を始めました。最初は暗中模索ではありましたが、「母体校を大切にすることが槻の木高校の未来を切り開くんだ」という河村初代校長の決意と、「ならば私たちのあらゆる思いを超えて一つの同窓会を創っていきましょう」という島上高校同窓会（嶋真会）、高槻南高校同窓会（槻の葉会）の会長を初めとする役員の方々の協力体制により、三校一体の同窓会作りを実現することができました。



両母体校同窓会の代表の方々と共に打合せを重ね、当時の運営状況や同窓会則などを参考にさせていただき、槻の木高校同窓会則（総会で配布しますのでご覧ください）を作成することができました。これは、両母体校同窓会の皆様のご助言のおかげであり、心より感謝しております。

さて、現役の槻の木高校生は、学習活動や部活動など今を一生懸命生きるべく、頑張っております。この間、進学面におきましては初年度からずっと、二桁の国公立大学への合格者を出し、有名私立大学の合格者も年々増加しています。また、部活動でも、ソフトテニス部・サッカー部・囲碁部が近畿大会に出場し、プラスバンド部も地区大会を勝ち上がり大阪府大会で優秀賞を受賞するなど年々成果をあげつつあります。また、そういう文武両道とさらに規律を重んじる槻の木高校の教育に対して、地域においても年々評価があがってきております。槻の木高校は、未だ発展途上の学校であり、今後とも同窓会の皆様の一層のご協力・ご支援の程、よろしくお願いいたします。



同窓会会計 収支報告

(単位:円)

項目	収入	項目	支出
高槻南同窓会引継金	2,000,000	講義室2空調設置費	1,800,000
島上同窓会引継金	3,000,000	1期生二十歳の集い運営経費	639,900
島上高校私費関係残金引継	1,801,801	2期生二十歳の集い運営経費	362,096
1期生同窓会費	1,356,000		
2期生同窓会費	1,368,000		
3期生同窓会費	1,374,000		
4期生同窓会費	1,422,000		
1期生二十歳の集い参加費	436,000		
2期生二十歳の集い参加費	252,000		
雑収入	74,585		
①収入計	13,084,386	②支出計	2,801,996

※ H17年度当初からH21年度9月末日までの決算である。
 ※ ①収入計 13,084,386 円から、②支出計 2,801,996 円を、差し引いた額 10,282,390 円が、H21.10.1現在の残高となる。

同窓会総会のご案内

日時 十一月二十二日(日)

二時～ 受付
二時三十分 開会

場所 槻の木高等学校 新館四階 視聴覚室

議事

- 事業報告
- 会計報告
- 本会名称について
- 新役員人事

多くの同窓生のご参加をお願いします。